

平成26年度 日之影町立宮水小学校 自己評価

4:期待以上 3:ほぼ期待通り 2:やや期待を下回る 1:改善を要する

重点目標	具体的な取組（方策）	成果指標	成果指標に対する評価			学校の自己評価所見	自己評価	学校関係者評価
			教師	保護者	児童			
学力の向上	①個に応じた指導と指導体制の充実	授業内容を理解し、基礎的・基本的な知識や技能を習得している。	3	4	3	○特別支援員との計画的・継続的な個に応じた指導や個別指導により、諸検査や国や県の学力調査で基礎学力の向上が見られた。	3	3
	②基礎的・基本的な事項の確実な定着	思考力、判断力、表現力を身に付けている。	3	3	3	○主題研究(算数科)において、ICTの活用を図り、個の考えを伝え合う授業の工夫・改善に取り組んだことで、話し合う活動が活性化され、思考力や表現力に高まりが見られた。	3	3
	③「活用する力」を高める授業法の工夫・改善	次の日の学習の準備ができ、忘れ物がない。	2	3	3	○休日明けの忘れ物が多く、忘れ物をする児童が固定化している。児童・保護者の意識を高める個に応じた手立てを講じる。	2	3
	④コミュニケーション能力の向上	進んで読書をしている。(毎月5冊程度を目安)	2	2	2	○読書環境を整えるとともに、さまざまな方法で本の紹介をしたり、本を読む楽しさを味わわせたりし読書を推進する。	2	2
豊かな心の育成	①時と場に応じた挨拶会釈の励行	自分から進んで、時と場に応じた挨拶や会釈を行っている。	3	3	3	○あいさつに対する地域の方の見方を、授業や参観日で取り上げ、保護者も巻き込み、気持ちのよいあいさつができるようにする。	3	3
		丁寧な言葉遣いができる。	2	2	2	○日常生活の言葉のやり取りに問題がある。人権教育の視点で指導を見直したり、ソーシャルスキルの授業を実践したりする。	2	2
	②望ましい人間関係の醸成	学級の人間関係が良好で、一人一人が楽しく生活を送っている。	3	4	4	○学級経営を基盤とした人間関係づくりがうまくいっている。しかし、トラブルは起きており、常に問題があるという意識で、指導していきたい。	3	4
	③児童会活動や学校行事を通した主体性の育成	委員会や係など自分のやるべき事に対して主体的に活動している。	3	3	3	○児童自らが、工夫して活動に取り組むことができるよう、委員会活動や係活動の在り方を見直し、児童の主体性をさらに伸ばす。	3	3
	④美しい教育環境づくり	清掃に進んで取り組み、身の回りをきれいにしようとしている。	3	2	3	○学校での清掃態度はよくなっている。家庭での実践化に向け、保護者と共通理解を図り、時間や場の設定を行う等の取組を進める。	3	3
		靴やトイレの履き物をきちんと並べる習慣が身に付いている。	2	2	2	○履き物を並べることを、視覚的にとらえさせたり、具体的に示したりし、年間を通して指導し、成果が目に見えるようにする。	2	2
		一人一鉢の花の手入れを責任をもって行い、大事に育てる。	2	3	4	○活動の時間の確保を確実にし、児童が、相手意識や目的意識をもって、花の栽培に取り組むよう指導する。	3	3
たくましい心身の育成	①体力テストにおける個の目標設定と継続指導	体力テストの個人到達目標に基づいた体力を身に付けている。	3	4	3	○教科体育において、全ての学年で、体づくりの運動を中心とした取組を行ったことで、体力の向上を図ることができた。【体力テストの判定(A～Eの5段階)で、C(標準)判定以上が84%、A判定が23名】	3	4
	②「なわとび運動」の推進	立腰を意識した正しい姿勢で学習している。	2	2	2	○立腰の大切さを理解させるとともに、お手本になる姿勢の児童の写真を掲示したり、称賛したり等し、立腰に対する意識を高める。	2	2
	③「早寝」をめざした指導と掲示物の充実	外遊びや運動に進んで取り組むなど運動の日常化・継続化が見られる。	3	4	3	○ラジオ体操やなわとびを中心に、運動に計画的、継続的に取り組むようにしたことが、成果につながった。	3	3
	④養護教諭や栄養教諭との連携による日常指導や授業	早寝、早起き、朝ご飯など基本的な生活習慣が身に付いている。	3	4	3	○休みの日の生活習慣や朝ご飯の内容については、まだ課題として残されており、養護教諭や栄養教諭と連携し、重点的な指導を行う。	3	3
		正しい食事のマナーや望ましい食習慣が身に付いている。	2	3	3	○給食では偏食の児童が少なく、残菜もほとんどない。マナーについては、重点項目を明確にし、家庭と同じ歩調で指導を進める。	2	3
地域との連携	①家庭と連携した学習習慣の定着	学級児童が毎日の宿題や宅習を欠かさず行い、習慣化されている。	3	4	3	○概ね家庭学習の習慣化はなされているが、個別指導が必要な児童はいる。目的をもって家庭学習に取り組めるようにする。	3	3
		児童がメディアコントロールを行い、読書や手伝い等に取り組んでいる。	2	2	2	○メディアコントロールウィークの実施にあたっては、事前に学級活動に指導を位置付け、より計画的、実践的に取り組む。	2	2
	②家庭・地域と連携した体験活動や交流活動の充実	PTAや地域の体験活動を通して、思いやりのある豊かな心が育っている。	3	3	3	○地域に出て活動したり、地域に情報を発信したりする等し、「ふれあい」を進める。	3	3
	③家庭と連携した弁当の日推進	他の学校の児童と交流を深め、社会性を身に付けている。	3	4	4	○集合学習のための特別な授業から、一歩進め、普通の授業で、他の学校の児童と交流を図ることができるように計画する。	3	3
		自分でコースを選び、意欲的に弁当の日の活動に取り組んでいる。	3	3	3	○高学年では、栄養教諭による指導で、児童が自らの力で実践的な取組ができるようになりつつある。	3	3